

第21回「主婦の消費行動に関するアンケート」結果

1 はじめに

OKB総研では、毎年、岐阜・愛知・三重・滋賀県に在住の主婦を対象に「主婦の消費行動に関するアンケート」を実施している。

日本経済が緩やかな回復を続けている中で、この地域の主婦がどのような消費行動をしているのか、以下でその実態を明らかにしたい。

2 調査概要

本調査の概要は以下のとおりである。

- (1) 調査時期：2018年11月12日～11月16日
- (2) 調査方法：OKB大垣共立銀行本店(東京・大阪を除く)に来訪した主婦^(※1) 791人にアンケート用紙を配布・回収
- (3) 有効回答数：786名(有効回答率99.4%)
- (4) 回答者属性

属性	項目	割合
年代	20歳代	7.7%
	30歳代	15.1%
	40歳代	28.7%
	50歳代	29.9%
	60歳以上	18.6%
住所	岐阜県	56.4%
	愛知県	39.8%
	三重県	2.0%
	滋賀県	1.8%
就業形態	専業主婦	13.3%
	正社員・公務員・自営業	43.1%
	パートタイマー	41.3%
	内職・その他	2.3%

(※1) 本調査における「主婦」とは、既婚女性で子どもの有無や就業形態は問わない。
 (※2) 数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある(以下同じ)。

3 定例調査

(1) 主婦の景気判断

最初に、消費行動を左右する景況感と物価観を概観する。

A. 主婦の景況感

「現在(2018年)の景気は、1年前と比べてどうなったと感じていますか」と尋ねたところ、「良くなった」が全体の4.1%、「変わらない」が69.9%、「悪くなった」が19.3%となった(図表1)。前年と比べて「良くなった」が3.5ポイント低下し、「悪くなった」が3.5ポイント上昇した。全体として主

婦の景況感は悪化していることがうかがえた。

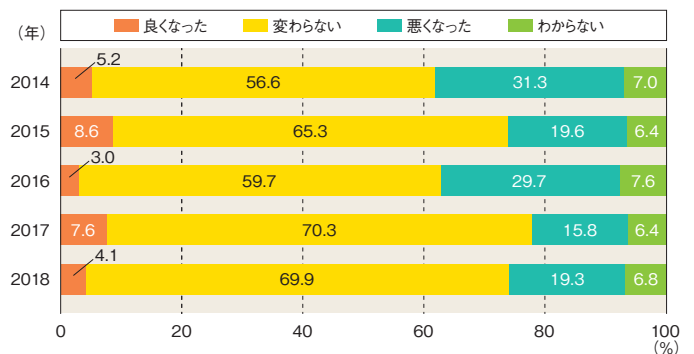
年代別に見ると、全ての年代で「良くなった」が低下した。また、50歳代を除く全ての年代で「悪くなった」の回答率が上昇し、特に「60歳以上」では前年比10ポイント超の大幅上昇であった。就業形態別では、「専業主婦」で「悪くなった」の回答率が大きく上昇した(図表2)。

景況D.I.(「良くなった」の回答率-「悪くなった」の回答率)は▲15.2。前年より7.0ポイント低下した(図表3)。

B. 主婦の物価観

「現在(2018年)の物価は、1年前と

図表1 主婦の景況感(全体)の推移



図表2 主婦の景況感(属性別)

	良くなった	変わらない	悪くなった	わからない
全体	4.1 (▲3.5)	69.9 (▲0.4)	19.3 (3.5)	6.8 (0.4)
20歳代	8.3 (▲7.5)	65.0 (1.8)	15.0 (8.0)	11.7 (▲2.3)
30歳代	6.8 (▲2.7)	67.8 (▲8.9)	13.6 (5.0)	11.9 (6.7)
40歳代	2.7 (▲1.2)	75.6 (▲3.2)	15.1 (3.0)	6.7 (1.5)
50歳代	3.8 (▲4.1)	75.2 (9.6)	17.9 (▲3.0)	3.0 (▲2.5)
60歳以上	2.7 (▲5.4)	56.2 (▲4.8)	34.2 (11.4)	6.8 (▲1.3)
岐阜県	3.4 (▲2.8)	66.3 (▲2.6)	22.4 (4.8)	7.9 (0.6)
愛知県	5.1 (▲4.8)	75.3 (3.6)	14.1 (0.4)	5.4 (0.6)
専業主婦	1.9 (▲5.9)	63.5 (▲2.2)	27.9 (12.2)	6.7 (▲4.1)
正社員等	6.2 (▲4.3)	69.7 (1.1)	16.6 (1.3)	7.4 (1.7)
パート	2.8 (▲1.9)	72.1 (▲0.9)	19.2 (2.9)	5.9 (▲0.1)

(※) 括弧内は、前年差を示す。